

27. レジャーダイバーの実態調査 —減圧症経験者と減圧症罹患率—

芝山正治*1) 山見信夫*2) 中山晴美*3)
小宮正久*2) 内山めぐみ*2) 高橋正好*4)
水野哲也*5) 眞野喜洋*2)

*1) 駒沢女子大学
*2) 東京医科歯科大学医学部保健衛生学科
*3) 牛久愛和総合病院
*4) 資源環境技術総合研究所
*5) 東京医科歯科大学教養部

【はじめに】 レジャーダイバーを対象とした実態調査の中で減圧症罹患経験者の分析を行った。

【方法】 1996年から1999年までの4年間に静岡県伊豆半島の大瀬崎で聞き取り調査を行ったダイバーを対象とした。

【結果と考察】 調査人数は4年間で2354人であった。減圧症の罹患経験者数は、37人（男性34人、女性3人）であり、罹患率は1.6%であった。37人中、I型が23人（62%）、II型が14人（38%）であったが、HBOの治療を行った者は、I型が9人（39%）であり、I型が10人（71%）の計19人（54%）と約半数であった。治療を行わなかった者は、その後、症状が軽快したと述べている。

職業分類は、インストラクターやガイドダイバー（女性1人含む）が28人（76%）を占め、残りがレジャーダイバーであった。

減圧症のタイプ分類は、医療機関で取り扱った割合とほぼ一致したが、HBOの治療を行った19人に対する割合は、I型が9人の45%とII型が10人の55%であった。また、減圧症罹患率が1.6%とするならば、全国に約4千人以上の減圧症を経験したダイバーが存在することになり、深い潜水や潜水後の高所移動による危険性などの安全対策の普及に努める必要がある。

28. 減圧症に罹患したプロフェッショナル レクリエーションダイバーの分析

吉村成子*1)*2) 恩田昌彦*1) 森山雄吉*3)
徳永 昭*1) 松倉則夫*1) 松田範子*1)

*1) 日本医科大学第一外科
*2) 医療法人社団成美会吉村せいこクリニック
*3) 日本医科大学第二病院消化器病センター

当クリニックと日本医科大学第一外科で再圧を行なった減圧症症例は、1992年11月から2000年6月までで162例に及ぶ。それ以前は減圧症自体が少ないが、その半数が職業ダイバーであった。以降の162例では、職業ダイバーは3例のみで他は全てレクリエーションダイバーである。その内訳をみると、60例がインストラクターやガイド等のプロレベルであった。アマチュアでは、知識や認識が甘いため発症したケースが多いが、プロレベルではどの様であるかを今回分析し、若干の知見を得たので報告する。男女比については、全減圧症罹患患者総数では、女性は162例中37例で22.8%であるが、プロでは、60例中8例で13.3%であり、一見プロでは女性の罹患が少ない様に思えるが、インストラクター総数で女性は約30%である事を考えるとその割合は特にプロで女性の罹患が少ないとは言えないと考える。年齢では、やはり20代、30代が81.7%で大半を占めるが、プロでは50代は一人のみでアマチュアでは最近シルバーエイジのダイバーが増加しているが、プロとして現役で仕事をするには、やはり体力等で限界があるからと考える。次に発症の原因であるが、特に無謀な事をしていなくても、夏場のシーズンに極端に本数多くて発症しているケースが約半数、その他インストラクターであるにも拘わらず早すぎる飛行機搭乗や高地への移動、大深度潜水等明らかな基準違反により発症しているケースも20例ありプロとしての認識がより必要と考える。